※裏面もご覧ください

いきいき直売の会特報

令和４年２月号

○売場の出荷状況について～みんなで実現しよう！冬期の品揃え～

直売の会令和４年１月販売実績は、13,254,888円（前年比122%）となり、記録的な降雪の影響により出荷が激減した昨年度に比べ、実績は伸びているものの、売場は依然として空きスペースが目立ち、お客様を迎え入れる体制が出来ているとは言えない状況です。

ビニールハウスをお持ちでない会員の方でも、雪中野菜を栽培し天気の良い日に収穫する、イモ類、枝物切花等、貯蔵出荷できるものを作付けする、干し野菜に加工して出荷する・・等、ご自分のできる範囲で冬期の品揃えに貢献できないかを考えていきましょう。

令和４年１月14日JAグリーンひみ売場の状況。お客様は皆様の出荷品を待ち望んでいます！！

○2022年トレンド野菜

今年度１月に発行された日本農業新聞に2022年トレンド野菜の記事が掲載されました（別紙）。今年度の作付計画の参考にしてください。

スポイト、スプーン、目盛り付きビーカー等、農薬測定資材
農薬を正確に測り採ることは安全安心の基本です。
お持ちでない方はぜひともご注文を！！

○農薬測定器・マスク等　注文書について

このたび、皆様の農薬の適正・安全使用を推進するため、スポイト、スプーン等の農薬測定資材及びマスク等安全資材について、注文を承ります。上記注文書にてお申し込みください。

※注文書は、JAグリーンひみバックヤードの整理棚に入っています。また、JA氷見市ホームページの「直売の会」会員用ページからもダウンロードできます。ご利用ください。

JAグリーンひみ　バックヤード整理棚

○申込期日：３月25日　○申込場所：所属JA支所

※裏面もご覧ください

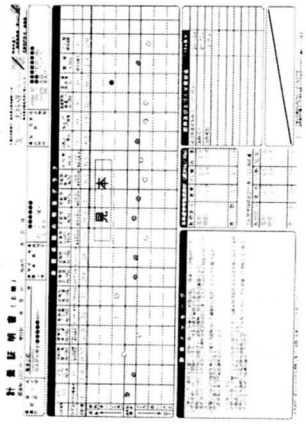
○土壌分析検査の申込受付について（ご案内）

「畑の作物の収量が年々落ちてきている…」
「近頃、この畑では、病気や害虫の被害に遭いやすくなってきた…」
「酸性土壌を好む作物なので、予定の圃場でうまく作付けできるか心配」

皆さんの栽培圃場でこのような問題はありませんか？

毎年同じ圃場で同じような施肥（肥料の種類と量）を行った場合、土壌成分の過剰や不足が発生し、作物の生産性の低下や病害虫の発生を助長してしまう場合があります。

下記により、土壌分析検査の実施についてご案内しますので、上記のようなことで悩んでおられる方は、ぜひともご利用して頂き、土壌分析結果に基づく適正な施肥を行って頂きますようお願い致します。



土壌分析結果表（計量証明書）の見本
結果表には、各土壌成分の分析値の他、「診断メッセージ」として、結果に基づく改善対策が記載されます。

○分析項目

PH、EC、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、有効態リン酸、交換性加里、
リン酸吸収係数、交換性石灰、交換性苦土、CEC、腐食　以上 11 項目

○検査代

税込 5,940 円　※検査結果送付後、登録口座より引落し

○申込方法

土壌分析　予約申込書を所属 JA 支所に提出願います。

※土壌分析　予約申込書は、JA グリーンひみバックヤードの整理棚に入っています。
また、JA 氷見市ホームページの「直売の会」会員用ページからもダウンロードできます。
ご利用ください。

○申込期日　令和 4 年 2 月 28 日（月）

本農業新聞
（第３種郵便物認可）

サツマイモ連続首位

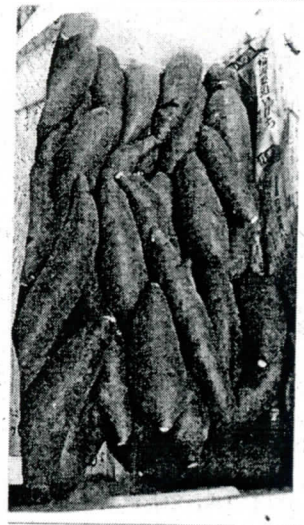
加工・業務用 望まれる価格安定

2022年の野菜トレンドは、サツマイモが断トツの人気を獲得した。焼き芋の簡便さやスイーツ、輸出など、幅広い需要の伸びしろに期待が集まった。トマトも中玉や高糖度系を中心に存在感を示した。米の転作作物で注目の加工・業務用野菜は、継続的な取引に向けた価格の安定を望む声が多く出た。

▼1面参照（6回掲載）

2022 トレンド 本紙調査から ①

野菜



野菜の売れ筋動向について、卸売会社や仲卸業者など35社から回答を得た。

サツマイモが昨年に続く1位となり、票数も16と他に大きく差をつけた。品種は「べにはるか」が8票、「シルクスイート」が4票と、しっとり系に人気が集中した。焼き芋の販売が拡大し、新顔の「あまはづき」に夏の需要増を期待する声も出た。スイーツ需要も高く、減産傾向の「ベニアズマ」を望む意見も出た。

昨年、サツマイモと並び1位だったブロッコリーは7票を獲得。簡便さや健康志向を背景に需要を確立する。一方、「増産の勢いが早く、近く供給過剰になる」との指摘も。需給動向を見極めた生産、加工・業務用の需要拡大が鍵を握る。

同票のトマトは、中玉系の人気が高かった。ミニトマト（5票）を含め、高糖度系のニーズが根強く、機能性を売りに商品化する動きから健康面への注目も目立った。一方、大玉は供給過多傾向から価格低迷の懸念も出た。

◇

米からの転作作物としても関心が高まる加工・業務用野菜について、国産シェア獲得に最も必要なことを聞いた。

最多は「安定価格に対する産地、実需者の理解」（得票率30％）。生産費が上昇する産地を考慮し、実需者に「再生産価格を意識して価格設定し、生産意欲維持につなげてほしい」と望む声が出た。持続的な取引へ、双方が納得する価格の居所を探ることが鍵を握る。

「需要に特化した品目・品種選定」も21％と多い。「作柄変動リスクを補う安定供給体制」（18％）として、全国規模の出荷リレーを望む声も目立った。「実需ニーズに応じた荷姿・商品化」では、国産の需給調整や食品ロス抑制の観点から、冷凍野菜への関心が上がった。

◇

近年、「生鮮野菜の機能性表示」による販促に取り組む実需者や産地が出てきたことから、考え方を聞いた。「具体的な販売・提案の予定はない」「関心はない」が6割を占めた一方、「既に販売・取引先への提案を実施している」も16％おり、関心に差が出た。

関心を持つ会社は「他の食品でも広がり、重要性を感じる」「産地が積極的にPRする姿勢を持っている」などと回答。「（機能性の）科学的根拠を自社で証明できない」との声も複数あり、専門機関によるサポートのニーズがうかがえた。

◇

農畜産物を取り扱う業者を対象に22年の売れ筋予測をアンケートで尋ねた。品目別の詳細を「2022トレンド～本紙調査から～」で紹介する。

2022年に消費が伸びそうな野菜

順位	品目〈昨年の順位〉	票数	注目の品種・ブランドや、主な回答
1	サツマイモ〈1〉	16	・「べにはるか」は入荷が毎年伸び、輸出も順調 ・品種の多さ。しっとり系で高糖度の「シルクスイート」、菓子原料で「ベニアズマ」も根強い人気。 ・スイーツ加工での需要増が見込まれる ・収穫直後から高糖度の「あまはづき」。夏の焼き芋需要期待
2	トマト〈4〉	7	・大玉系の消費が悪い中、中玉系の需要が伸長 ・高糖度系が量販店で取り扱いが増加
2	ブロッコリー〈1〉	7	・調理が手軽で子供が好む野菜 ・健康志向の影響で消費が伸長
4	ミニトマト〈-〉	5	・見栄えが良く手間が掛からないへたなしの需要が伸長 ・高糖度、フルーツ系の需要が高い ・美肌効果など機能性が期待でき、消費が伸びる
5	レタス〈-〉	4	・加工・業務用途が伸長
その他			・ホウレンソウ、小松菜：健康志向、栄養が取れる葉物 ・パプリカ：SNS映えする ・ゴボウ、ニンニク、スティックセニョール：加工・業務用途

〈-〉は前年のデータなし